

鶴見大文学部ドキュメンテーション学会

NEWS LETTER

Documentation No.28

ドキュメンテーション



ノート PC の返却に集まった 13 期生の皆さん

文学研究科ドキュメンテーション専攻 1 期生と ドキュメンテーション学科 13 期生の卒業を祝して

ご卒業誠におめでとうございます。文学研究科ドキュメンテーション専攻 1 期生の大学院生と文学部ドキュメンテーション学科の学生の皆様の巣立ちを、非常に嬉しく存じます。今ここにいるすべての教員とともに、私は本学での学習努力と集中された勉強に卒業生とそのご家族全員を祝福します。皆さんは素晴らしい成果に大なる誇りを持ってください。

私たちの学科は特徴的かつ特別なところ。学生は、情報学、書誌学、図書館情報学の 3 つの専門の基礎を学ばなくてはなりません。将来、本学科で学んだ学術的な専門知識があなたの人生を通して助け、あなたに明るい未来をもたらすであろうと我々は信じています。

スティーブ・ジョブズの素晴らしいスピーチを引用します。

“You can't connect the dots looking forward, you can only connect them looking backwards.

So you have to trust that the dots will somehow connect in your future.”

—— 未来を見据えて経験を繋げることはできません。繋げることは経験した後にしかできません。

だから、あなたの将来において、経験が何らかの形で繋がり貢献することを信じるべきです。

重ねておめでとうございます。あなた方全員に、幸運が訪れますように。

ドキュメンテーション学科 主任 角田 裕之



2019年度 卒業論文・修士論文題目

角田裕之研究室

- 新井 春奈 ビブリオバトルが与える読書コミュニティへの影響力 ―公共図書館における現状とこれまでの広がり―
- 井口 春佳 学校教育におけるビブリオバトルの有用性 ―授業への活用に関する現状と分析―
- 御守 菜摘 公共図書館における提供を配慮する図書への対応の比較研究
―『絶歌：神戸連続殺傷事件』と『開けられたパンドラの箱：やまゆり園障害者殺傷事件』の比較分析―
- 境田 季姫 刀剣乱舞-ONLINE-に登場する刀剣15振りの歴史的背景と逸話に基づく分類 ～造込みと刃文～
- 神原 優大 鶴見大学図書館における開架図書の
オブソレッセンス（文献が古くなるにつれて利用が減っていく現象）の観測についての研究
- 佐藤 綾香 公共図書館の特別展示についての調査・研究
- 佐藤優梨子 人口知能（AI）の図書館業務への応用と今後求められる司書スキルの調査
- 中村 友香 公共図書館における障がい者サービスの現状の調査
- 森 桃子 大学図書館における企画展示による大学生への影響
- 山崎 聖未 大学図書館における広報活動としてのツイッターアカウント運用に関する研究

河西由美子研究室

- 加治 美香 子ども文庫の運営者に関する研究
- 宿島 悠 ロングセラー絵本に関する研究
- 田代 桃子 有害図書指定の図書館の自由への影響に関する研究
- 曳沼 凌 横浜市の郷土資料の活用に関する研究

伊倉史人研究室

- 荒木田季生 書林風月堂の研究
- 及川 彩華 改題本の研究 ―事例調査と出現原因―
- 大島みなみ 金寿堂・牧金之助の出版活動について
- 大竹 将哉 戸外遊戯法に関する研究 ―野球規則を中心に―
- 篠原はるか 絵入り『古今和歌集』（須原屋茂兵衛版）の挿絵に関する考察
- 高橋 美沙 紅梅文庫の復元的研究
- 高柳 絢香 冷泉為秀の書写活動について
- 古川 薫 鶴見大学図書館蔵『詞花和歌集』の研究
- 山室 虎鉄 仮名本詠歌大概の研究 ―鶴見大学蔵本を中心に―
- 山本千菜美 『舌切雀』の変容 ―明治・大正期刊行の昔話を中心に―
- 吉田 真雪 博物図譜についての研究 ―『桃洞遺筆』を中心に―



元木章博研究室

- 大学キャラクターの3DCG素材の製作と評価改善 ～鶴見大学におけるMMDモデルとしての活用例～ 秋山 知華
各都道府県におけるスマートサイトの実態調査及びロービジョン者からみた印象 大下 由真
マルチメディアDAISY図書製作者養成に向けた指導方法の評価と改善 大橋 薫
受験生に向けた情報提供を目的としたMMDAgentの導入と評価 ～鶴見大学における試行～ 梶井 亜綾
災害時における聴覚障害者に向けた自治体の広報手段の実態調査およびコミュニケーション支援方法の提示 後藤 茜
点字学習時のテストにおける誤答の詳細分析および授業改善に向けた提案 志田 祥子
司書課程における病院図書室に関する履修科目の有無と内容についての実態調査及び授業計画の提案 富澤 桜
聴覚障害者向け支援機関の関係の現状調査及びスマートサイトの作製と改善 馬込 綾乃
大学図書館における障害学生支援の現状の調査と分析 吉田はるか
【修士論文】
晴眼者の点字学習に対する動機づけを構成する要因の分析 星野ゆう子

大矢一志研究室

- アイドルグループにおけるキャラクター作りの研究 —KH coderを使ったKAT-TUN発語データの分析— 河津亜沙美
コンシューマゲームのジャンル分析 玉貫 奈々

加藤弓枝研究室

- 古活字版『清少納言枕草子』に関する研究 井上 立也
松尾芭蕉の作品から見る元禄時代の装訂に関する研究 岡山 将大
『古今和歌集』の版元に関する研究 郡司 智大
「鶴見大学図書館蔵『歌仙絵』断簡』に関する調査と考察 三浦美紗季
日本古典籍の画像に関する著作権法の研究 藪上 貴博
版本『詞花和歌集』の本文系統に関する研究 山崎 久美
江戸時代に出版された『百人一首』を中心とした歌仙絵に関する研究 渡邊 真以

田辺良則研究室

- bottleを用いたe-ラーニングサイトの作成 櫛田 圭介
オフライン文字認識における機械学習モデルとOCRライブラリの評価 小林 優輔
SATソルバーを用いた時間割作成 渋谷 拓泉
統計学に基づくプロ野球データの分析 千葉 一生
大相撲の取組結果に関する電子データの作成 中島 祐
説明と理解に関する研究 萩原 侑也
ウェブスクレイピングを用いた就職活動支援システムの開発 阪東 菜月
多変量解析を用いたデータ分析 村上 雅明



角田裕之研究室

角田研究室では、図書館学に関する論文だけでなく自分の興味関心のあるテーマを最大限に尊重してもらえます。毎週の卒業論文演習では論題決めから、論文の構成、研究方法、進捗状況等をゼミ内で報告していきます。卒業論文の執筆において始めは分からないことや迷ったりすることも多くあると思いますが、角田先生やゼミのメンバーから意見やアドバイスを頂くことで徐々に形が見えてくるとと思います。中間発表後から提出までの期間は主に個人で研究を進めていく時間が多くなりますが、個別指導の時間を取っていただけるので執筆中に困った事があれば角田先生に親身に相談に乗ってもらえます。温かく和やかな雰囲気の中で自身の研究に集中することができるゼミだと思います。[高濱美月]



河西由美子研究室

河西研究室では、主に図書館学に関する論文を執筆しています。ゼミでは、週に一度各自の卒業論文の進捗報告を行い、先生やゼミ生からの意見を参考に自身の卒業論文を進めていきます。また、夏休みには半年間でどれだけ研究が進んだか、今後どのように論文を執筆していくのかななどをプレゼンテーションする中間発表会を行い、卒業論文の完成を目指します。そしてゼミ外の人に向けて自身の卒業論文の集大成を発表する成果発表会も行います。初めて執筆する卒業論文ということで書き方など分からないことが沢山あるかと思えます。もしそういった状況に陥った場合は、積極的に先生に相談に行くことをオススメします。必ず力になってくれます。 [加治美香]

大矢一志研究室

自然言語処理で卒業論文を書こうと考えたものの、分析対象として自身の趣味嗜好を扱うのは相応しくないのではないかと悩んでいました。そこで先生に相談したところ「それは非常に面白い研究になる」と背中を押していただき「アイドル」をテーマに分析することになりました。自分の好きな題材を選ぶことで、最後までモチベーションを保ちながら研究に臨むことが出来たと思います。キャラクター分析という研究分野でアイドルを対象とした前例がなかったことも、非常に意欲を刺激されました。決して楽な研究だった訳ではありませんが、楽しみながら取り組めたことを嬉しく思います。 [河津亜沙美]

伊倉史人研究室

伊倉ゼミでは3週間に1回発表することになっていて、必ず成果を見せなくてはいけないため、気を抜くことなく研究を進めることができました。他のゼミ生の発表を聞くこともモチベーションに繋がり、自分の研究にも応用できることも多くありました。約9か月間と聞くと長いように感じていましたが、実際に書き始めるととても短かったです。その中で感じたのは計画の重要性でした。就職活動との両立も難しく、執筆期間中はとても不安になります。この時先生やゼミ生に自分の進捗状況を認識されている状態は刺激にもなりました。このお蔭で私は卒業論文を仕上げることが出来たと思っています。 [及川彩華]



加藤弓枝研究室

加藤研究室では書誌学の分野を中心に、3年次までの授業から派生したテーマなど、各々の興味に応じた研究をしました。今年度は版本の画像を比較したり、表を作成して考察したりと、パソコン画面やデータベースと睨み合う学生が多かったです。前期は毎週のゼミにて経過を発表し、先生やゼミ生から意見や質問を貰って研究を深めていきました。後期は個別に指導を受け、論文として仕上げていく作業を行いました。また学生たちで企画をし、ゼミコンパや京都ゼミ旅行などの行事も行いました。一人で思い悩むよりは、先生やゼミ仲間と意見を言い合うことで、学生同士切磋琢磨できてとてもいい環境で研究を進められたと感じています。

[三浦美紗季]



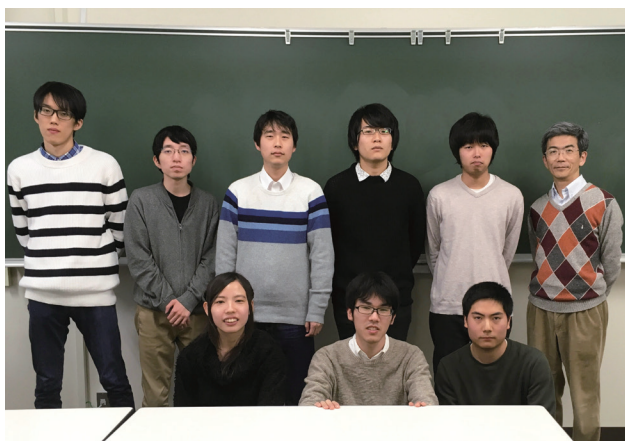
2019年度

研究室紹介

田辺良則研究室

田辺研究室では、プログラミングを中心に各々が興味を持った分野を研究することができます。ゼミは、週に一度1週間分の進捗をゼミ生と先生の前で発表します。自分の発表に対してゼミ生や先生から質問や意見をもらうことができるので、自分自身の課題が明白になります。また、1人1回の質問があるので他のゼミ生のやっている研究内容も知ることができます。先生との個人面談も可能なので課題の発見や解決がスムーズになります。

[榎田圭介]



元木章博研究室

今年度の元木研究室では、障害者福祉やCGキャラクターのモデリングやその活用法などを取り扱いました。1年を通し様々なイベントがあり、スケジュール管理能力も養われます。配属後は質の高い研究ができ、外部での発表でも通用するような卒業論文を作成することができます。また、共に切磋琢磨しあう同期や卒業論文や就職活動について相談にのってくださるOB・OGの先輩方、授業について質問やゼミについての相談に来る下級生など、とてもにぎやかな研究室です。

[大橋 薫]



図書館学コース レファレンスサービスを学びたい

2年 原 真優

私が学校司書として働くのを目標としたのは中学生の頃です。きっかけは小学生の時に図書館に常勤していた司書の先生でした。ドキュメンテーション学科で学ぶ中で、学校に常勤している司書は少ないと知り、当時の私が恵まれていたことに驚きを隠せませんでした。私は自分が受け、この目で見えてきたレファレンスサービスを今度は自分自身が出来るようになりたいと考えています。図書館学コースへと進んだら、図書館の役割やレファレンスについての学びを深め、学校司書としてできること、生徒や教員からどのようなことを求められているのかについて追求していきたいです。そして大学を卒業後、恥ずかしくない司書として活躍できるよう頑張りたいと思っています。

図書館学コース 利用しやすい図書館を目指す

2年 菅井 珠美

これまでの授業の中で特に印象深かったのは「ドキュメント処理演習Ⅰ」だ。NDC（日本十進分類法）を用いて図書を分類していく方法、またBSH（基本件名表目標）を使い件名を付けていく流れを学んだ。図書館を利用して、本に付けられた分類番号を確認したり、OPACの件名を見たりする機会はあった。しかし、その基準やルールについては知らなかったのも、とても興味を持った。

これからは、利用者が図書館を活用する際の障害をどうしたら無くせるのかということを考えてい。使いやすく書籍が分類されていたとしても、利用者が分類について少なからず知っていないと上手に図書館を活用することができないし、必要な情報にアクセスできず不便なこともあるだろうと考えたからである。そうした課題を考えていくことで、より利用しやすい図書館というものが見えてくるのではないかと考えている。

情報学コース python を習得したい

2年 杉山 祐磨

私は、3年生で情報学コースを選択したい。

「プログラミング概論」で基礎を学び、プログラミングに興味を持った。一つ一つの作業を積み重ねていくことが自分に合っていると感じた。自分の考えた通りに動いた時には達成感を味わえ、プログラムは簡潔に整理して書くということが大切だということもわかった。

今後は、他のプログラミング言語を学びたい。特に「データベース各論Ⅱ」でpythonという言語を学びたいと考えている。pythonは、AI（人工知能）等に利用される言語として主流なものだ。いろいろと学んで、自分のものとするので、アプリの開発など、さまざまなことができるようになりたいと考えている。

書誌学コース 書誌学コースに進む

2年 齋藤 優

私は書誌学コースを選択したいと考えている。それには2つの理由がある。

1点目は、くずし字を読むことに興味を抱いたからである。私は、「古典籍読解演習Ⅰ」を履修し、くずし字の読み方の基礎を学んだ。最初は一つ一つ読めなかったが、前期が終わる頃には単語を少しずつ読めるようになった。

2点目は、古典籍の書誌を取ることに興味を持ったからである。文様や紙の種類などの専門用語が覚えることが難しく、授業についていけないのではないかと感じることもあったが、わかることが増えて自信ができてきた。正確に書誌を取れたときは嬉しく思え、これからももっと学んでいきたいと考えた。

書誌学コースに進んだ後は、くずし字を今より読めるようになるための勉強や、写本の本文内容を比較研究することに力を注ぎたいと考えている。読むことが難しいくずし字を、「古典籍読解演習Ⅱ」で学び、読めるようになりたい。また、古典籍の書誌を取っていく過程で、本文にどのようなことが書かれているのか興味が出てきたので、写本が改作されたり、誤写されたりしていったのか、ということも学んでいきたいと考えている。

入学1年目を振り返って

1年生にドキュメンテーション学科で過ごしてきたこの1年間のことを振り返ってもらいました。

🗨️ 目まぐるしく回っていった一年間でした。大学生1年目ですべてが初めてだったので、すべてがワクワクであり、とても心配でもありました。空きコマがあれば友人と話したりしてとても楽しかったし、図書館に行けば多くの本がありたいへん興味深かったです。この後の大学生活では司書になるためのより専門的なことを学ぶので、一生懸命頑張ろうと思います。これまで以上に周りの人を大切に、自分を大切に大学生活を生きていき、そして絶対に司書になろうと思います。



🗨️ 高校のころとは違う専門的な授業が多く、とても集中して臨むことができました。一番の不安だったパソコンの扱いも数々の授業を重ねていくうちに、自分でも成長を実感できるくらいに扱えるようになりました。タイピングも速くなりました。

🗨️ 鶴見大学図書館でアルバイトをしたことは、私にとって良い経験になった。私は図書館司書になることが夢であり、図書館で働く経験が欲しいと思っていたので、鶴見大学の図書館で働けることは嬉しかったし、学ぶことも多くあった。自分は利用者でしか図書館に行ったことがなかったので、図書館の裏側や、どんな仕事をしているのか見ることができ、面白かった。

🗨️ 最初は慣れない環境で不安でいっぱいでしたが、今では友達もたくさんできて、充実した大学生活を送っています。生活面ではやっと一人暮らしにも慣れてきたような気がします。今まで、親がやってくれていたことを全部1人ですることはとても難しく、親のありがたさを知りました。

🗨️ 鶴見大学を受験した理由は、司書の資格をとりたいたいというものでしたが、入学後に図書館学以外の選択科目に触れているうちに、司書についてのこと以外にも様々な知識を蓄えたいと思うようになりました。先生方から、様々なことを経験することは司書にとってもとても重要なことだと聞き、選択した科目への関心が高まりました。

🗨️ 情報科の先生になることを目指して、ドキュメンテーション学科に入学した。今の私は、昔よりかなりタイピング等も早くなり、IT用語等も少しずつ覚え、PCにも少しずつ慣れてきた。同じ中学、高校の人がそれほど多くなく、最初のうちは話す人ができるかどうか不安だったが、同じ授業をとっていたり、趣味等が同じ人と話しているうちに、大学内でも話す人が増えてきて一安心している。

🗨️ 私は話すことが不得意で人付き合いが苦手で、要領も悪いタイプだったので、大学に入学する前は不安なことが多くありました。でも、入学してからの自己紹介のときに、同じ趣味を持った人が多くいることに気づき、そこから自然と話の輪が広がり多くの友人ができました。



🗨️ 自分の学びたいことを選んで入学したので、毎日やりがいを感じている。大学の図書館の規模が大きいおかげで、今まで知らなかった分野の本を気軽に読めるようになった。これが入学して1番良かったと思う点だ。最近、気になる分野が見つかって図書館に行くのがとても楽しい。

古書店目録のデータベース化

特別実習 I では、昨年度に続き古書店目録のデータベース化を試みました。古書店が毎年刊行する目録には、書誌学的研究で扱われるような古典籍の重要な情報が豊富に含まれています。目録に記された書誌情報を正確に読み取り、利用者の要求を想定して情報を整理し、データベースの設計、運用方法を検討しました。書誌学、図書館学、情報学の3コースで学ぶすべて知識と技術を統合して、はじめて完成させることができるデータベースです。授業の成果を1毎のポスターにまとめ、11月の図書館総合展で発表しました。学内でも、昨年度のデータベースを作成した4年生や、来年度の履修を検討している2年生を集めて報告会を行いました。

話し合いを重ねて項目を設定

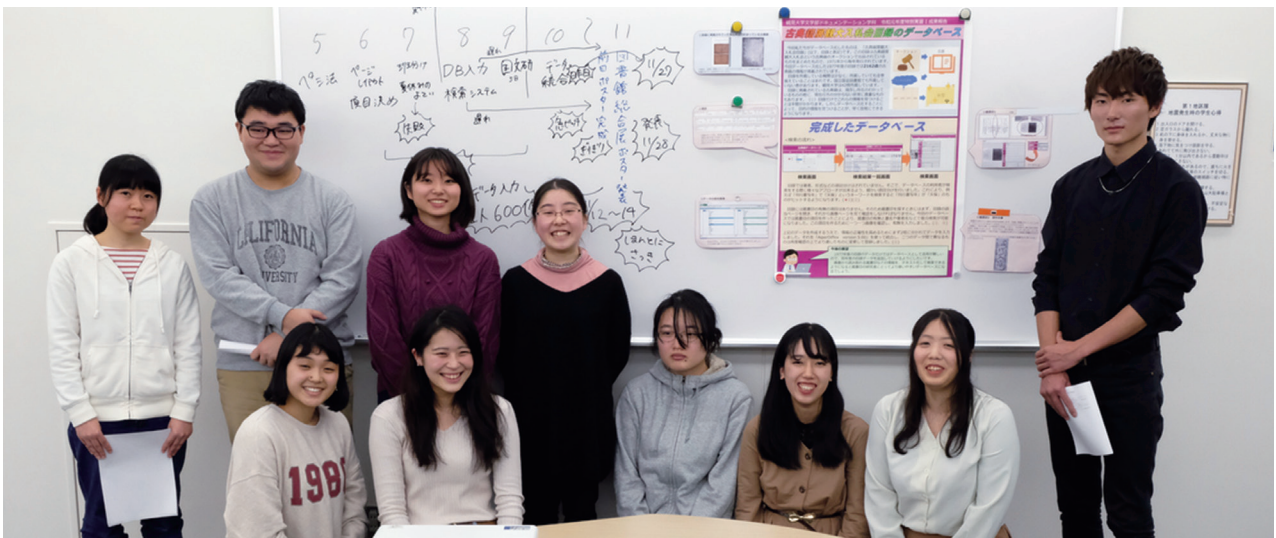
3年 水元 晴菜 [書誌学コース]

特別実習 I で書誌学コースのメンバーは、目録をデータベース化する際に必要な項目の設定を行いました。そのために、項目内容の洗い出しや振り分けを行いました。目録に掲載されている情報を私たちの力のみで項目に振り分けることは難しく、古典籍総合目録データベースといった既存のデータベースを参考に、メンバーと必要な項目についての話し合いを重ね、項目の設定を行いました。中には、今までの授業で取り扱ったことのない資料もあり、振り分けには難航しましたが、これまでに培った知識を応用することで振り分けることが出来ました。今回、他コースと協力をする上で自分のやるべき事への責任感を感じることができ、より良い経験を積むことが出来ました。

実践を通して知識を深める

3年 堺 果苗 [情報学コース]

今回私たちは、python プログラム作成・詳細画面表示プログラム作成・データベースの構築およびcss作成の3つに分けてデータベースと閲覧ページを作成しました。作業していく間にやりたいことが増えていき、一人一人の作業量の差が大きくなってしまったことが反省点として挙げられます。こまめに連絡を取り相談しながら、協力して作り上げることができたのは良い点でした。先生や先輩に相談し、メンバー間で協力することの大切さを学びました。また、プログラミングをするにあたって授業の知識のみではならず、それぞれ必要な知識を勉強する必要もありました。講義を受けているだけではわからなかったことも特別実習を通じて理解を深め、自身の成長に繋がりました。



2019 特別実習 I 履修者の皆さん

利用者の立場になって考える

3年 木村 朝日 [図書館学コース]

最初は、書誌学の知識も情報学の知識も無かったため、どのようにこのデータベース作成に貢献できるのかとても不安でした。しかし、最初に図書館学コース皆で話し合い、図書館学コースとしての役割を「利用者目線での意見出し」と決めたことで、利用者にとって使いやすいデータベースになるよう行動をし、貢献することができました。例えば、利用者のニーズを考えることや、OPAC・データベース研究を行いました。その結果、利用者にとって必要な検索機能や、利用者が見やすいような表示画面の具体的なデザインなどを考えることができました。今回のこの授業を通して、実際に今まで習ってきたことを活かすことができた、とても良い経験となりました。



学内報告会：ポスター発表

図書館総合展に参加

人に伝えることの難しさを学ぶ

3年 増淵 凜



特別実習1の成果を一枚のポスターにまとめ、2019年11月12日から14日に開かれた図書館総合展でポスター展示を行いました。ポスターを作る際、データベース化した目録はどういうものか、データベース化する意味は何かということ、限られたスペースの中で説明することが難しかったです。また外部の人に作業内容を分かりやすく伝えることは大変でした。先生方に何度もご指導いただき、幾度も履修生で話し合っ文章を直したりレイアウトを変えたりしました。人に伝えることの難しさを学びました。図書館総合展ではポスターの前に立ち、興味を持ってくれた方へ説明をしたり、作成したデータベースを触ってもらったりしました。日頃からデータベースを利用している方、データベースを作っている方にご意見やご感想をいただくことができ、学びの多い3日間となりました。

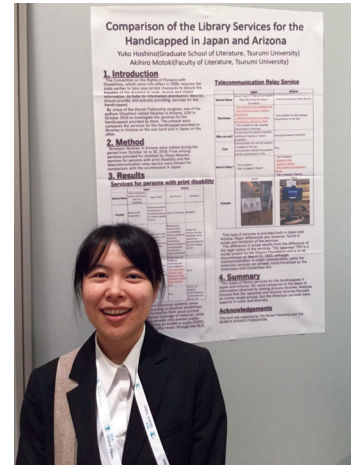
研究活動

世界図書館情報会議ギリシャ大会参加

博士前期課程 2年 星野 ゆう子

2019年8月24日から30日までギリシャ・アテネで開催された、第85回世界図書館情報会議(IFLA WLIC2019)に参加しました。IFLA WLICは、世界中の図書館で働く司書や図書館情報学等の研究者が集い、情報共有や交流を行なう場です。

私は、日本とアメリカの図書館で提供されている障害者サービスについて比較し、その内容をポスターで発表しました。ポスターの前に立っている時も、司書の方に見ていただく機会が多く、具体的にどのようなサービスであるかを質問されることも多くありました。また、司書が自身の勤める図書館で行なった取り組みを紹介するポスターも、多数掲示されていました。図書館での情報提供から飛び出し、自館の取り組みを図書館の外へと情報を発信していく、司書の力強さが印象的でした。学会のオープニングやパーティーでは、ダンスや歌などのギリシャ文化にも触れることができ、大変興味深い体験でした。



充実した研究生活 — 1年間を振り返って

博士前期課程 1年 鈴木 郁未

大学院に入学して約一年が経過しました。振り返ると、とても充実した日々を過ごせたと感じています。入学した頃の頃は演習の発表準備で手一杯でしたが、だんだん慣れてくると、自分の研究に取り組むことができるようになりました。大学院の授業では、学会に参加したり都内の研究機関へ出かけたりすることもありました。私は書誌学を専攻していますが、他コースの学会へも参加するなど、色々な分野について学ぶことができました。また自分の研究に関しては、初めて遠方にある他大学の附属図書館へ行き、貴重書の調査をしました。学部生の頃、鶴見大学に所蔵される古典籍を調査したことはありましたが、他の図書館に行くことは初めての経験でした。もっと事前に準備をしておくべきだったと反省したものの、この失敗を次回の調査に活かしたいと思っています。反省点も多くありますが、今後もこの一年を踏まえ、さらに充実した日々を送りたいと考えています。

海外研究者招聘 特別授業の報告

ドキュメンテーション学科では、年に1回程度、海外で活躍する研究者をお招きして、学生に授業をしていただいています。昨年(2019年)は、12月11日・12日に、米国フロリダ州立大学情報コミュニケーション学部のNancy Everhart教授にお越しいただきました。Everhart先生のご専門は図書館学で、2010年度には、米国学校図書館員協会の会長を務められました。

今回の招聘では2コマの授業をしていただきました。1コマ目は、先生も実践されている meta ethnography という研究手法の紹介で、内容的には難しい話でしたが、聴講していた3年生を中心とする本学科学生からは、鋭い質問も出て、有意義な授業となりました。もう1コマは、米国に留学して勉強することについての講義で、自分の世界を広げていくことを考えるきっかけになったと思います。(田辺良則)



ナンシー・エバーハート教授



No.18

【ユトリヒト中央公共図書館 [ユトリヒト、オランダ]】

de Centrale Bibliotheek Utrecht, Netherland (The Central Library of Utrecht, Netherlands)

ユトリヒトの駅から街のランドマークであるドム教会に向かう道は、恐らく昔からの姿を残している運河に沿う緩くくねった通りで、街一番の高さを守る塔を正面に見ながら歩くと気持ちが良い。その通りがドム教会入口近くの運河の前で広場のような交差点となり、その一角にユトリヒト中央公共図書館がある。

図書館と同じ建物の1Fには大きな書店があって、はじめは間違っってそちらに入ってしまった。そういえばオランダには至るところに書店がある。人々はきっと本好きに違いない。オランダはいち早く啓蒙思想が市民に根付き識字率が高かったことも、本好きが多い背景としてあるのだろう。少ない人口でも高い国力を持つ秘訣がここにある。



図書館の建物



4Fフロア

このフロアには4Fまで吹き抜けになった一角があり、天井の現代的なスタンドグラスからは思索に邪魔にならない程度の光の波が心地よく注いでいる。4Fは視聴覚資料の他、いわゆるMakerスペースがあり、3Dプリンターや電子工作をする作業台があった。定期的にワークショップを開催しているのだろう。またピアノも置いてあったりして、生きた視聴覚教材を楽しめる空間になっている。図書館の周りにはカフェも多いのだけれど、落ち着いて時間を過ごす選択肢のひとつとして公共図書館が街中に溶け込んであるのが羨ましい。

(大矢一志)

図書館の1Fは返却などの窓口のみで、書架は2Fから上にある。どのフロアもスペースは広い。書棚の数も多く、閲覧用の席も多い。平日の日中に訪問したのだけれど、熱心に勉強をしたり本を読んだりと大勢が利用していた。2Fには雑誌コーナーの側にカフェがあり、とても美味しい珈琲をいれてくれる。このフロアはここでも飲食も可能な席になっているようで、いろいろな形態のテーブル席でみな思い思いに時間を



ユトリヒトが生んだミッフィー...誰?

アクセス：ユトリヒト中央駅から市の中心側に出て、駅から同じフロアレベルの広場から目の前の大きな商業施設の中に入り、そのまま突き抜けるように、1Fに降りて、建物を出ると広場があり、その右手にある道を進むと本文にある一角に辿り着く。

開館時間：月 - 日で開館時間帯が異なる。開館は 10:00 または 13:00、閉館は 17:00, 18:00, 21:00 のいずれか。詳しくは web サイトを参照。アドレス：Oude Gracht 167, 3511AL Utrecht

<https://www.bibliotheekutrecht.nl/vestigingen/alle-vestigingen/openingstijden.264931.html>

学科・学会活動報告

2019年8月～2020年3月

■ 9月27日 学内合同企業説明会

約20社に来学いただきました。授業が重なっている学生もいましたが、4年生が説明を受けていました。下級生にも参加者がいました。

■ 11月7日～9日 図書館総合展で発表

毎年、パシフィコ横浜で開催されている図書館総合展において、特別実習Ⅰの受講生が、「古書目録のデータベース化」について成果報告をポスター発表しました。28日には学内発表会を行いました。昨年度の履修生や来年受講を考えている2年生も参加して、活発な質疑応答が行われました。

■ 2月3日 新2・3年生向けオリエンテーション

現1、2年生に向けて、来年度の時間割を組む際の注点等を説明しました。2年生は3年時にどのコースに進むのか、事前アンケートも実施。現時点では図書館学、書誌学、情報学コースほぼ同数で拮抗しています。4月までに何を中心に学びたいのかも一度よく考えてもらえたらと思います。

■ 2月4日 卒業論文口述試問

学生最後の集大成として4年生が卒業論文に取り組みました。そして、最後の試験として、自分の卒業論文について、指導教員との口述試問に臨みました。卒業論文にかけた熱い思いを込めて、1時間近く研究成果を語る学生もいました。試問を終えた後、皆さん晴れやかな顔を見せていました。

■ 2月5日 東京国立博物館見学会

国内外の貴重な美術品等コレクションを展示する東京国立博物館へ行って来ました。展示品から1点もらえらるとしたらどれを選ぶかというアンケート投票も実施。皆さんはどの作品が気に入りましたか？ 開催中の日

本書紀成立1300年の特別展「出雲と大和」や国際子ども図書館に足を延ばした人もいました。



■ 2月19日 貸与ノートPC返却

今まで4年間お世話になったノートPCを返却する手続きを13期生全員で行いました。今回から希望者にはノートPCが譲渡がされることになり、初期化の後、多くの学生が愛機を持って帰りました。



■ 3月14日 平成30年度卒業式（中止）

予定されていた卒業式、学位授与式が、新型コロナウイルスの感染拡大を防ぐために中止されました。皆さんに直接お祝いを伝える機会がなくなってしまう、教員および実習技術員一同たいへん残念に思っています。この場を借りて、ドキュメンテーション学科第13期生の皆さんの、今後のご活躍を祈念いたします。

※ 活動報告の詳細は学科ブログ (<http://blog.tsurumi-u.ac.jp/doc/>) でご覧になれます。

- 「ドキュメンテーション」第28号をお届けします。
- 13期生の卒業記念号です。卒業生の皆さん、おめでとうございます。新型コロナウイルスの影響で卒業式が中止となりとても残念です。
- 特別実習Ⅰでは昨年度に引き続き古書店目録のデータベース化に取り組みました。

ドキュメンテーション 第28号
令和2（2020）年3月14日（土）
鶴見大学文学部ドキュメンテーション学会
〒230-8501 横浜市鶴見区鶴見2-1-3
☎045(581)1001 発行責任者：角田 裕之
学科ホームページ：<http://ccs.tsurumi-u.ac.jp/docu/>